令和４年９月30日（金）
令和４年度第１回生涯学習推進協議会

日　　時　令和４年９月30日（金）午前10時00分～11時30分
会　　場　燕市民交流センター　３階　多目的ホール
出席委員　小野塚美鈴委員、田公美智子委員、田辺美香子委員、田野正則委員、
　　二平芳信委員、中島純委員、福田智子委員、真嶋大輔委員、
　　水野晶子委員、柳原康浩委員
欠席委員　石附行子委員、松井隆司委員、宮路美也子委員
事 務 局　廣田社会教育課長、石黒課長補佐、石村係長、成澤主事
　　地域振興課　伊藤係長、坂内主事
報道機関　なし

傍 聴 者　なし
議　　題　報告
　　(1) 燕市生涯学習人材バンクの令和３年度実績について
　　(2) 第３次燕市生涯学習推進計画の策定スケジュールについて
　　協議
　　(1) 第２次燕市生涯学習推進計画における令和３年度の成果
　　指標の実績値と令和４年度の目標値について
　　①輝くつばめを担う子どもの育成
　　②多様な学習ニーズに応える学習機会の充実
　　③ふるさと燕の芸術文化活動の振興
　　④ 生涯スポーツの推進と健康づくりの推進
　　⑤ 生涯学習社会を支える環境づくり

［以下、会議録（要旨）］

令和４年９月30日（金）
令和４年度第１回生涯学習推進協議会

報告
(1) 燕市生涯学習人材バンクの令和３年度実績について
《事務局説明》

〇委員
　文化・趣味・教養の中で「国民娯楽」とは具体的には何のことか。
〇事務局
　この「国民娯楽」は「けん玉」となっている。

〇委員
　令和 2、3 年度は、新型コロナの影響ということで、ほとんど利用がない実態だが、令和４年度あるいは５年度向けに、何か対策を講じているか。
〇事務局
　現在も HP などで周知をしているが、人材バンクに登録されている先生方が、いろいろなところで活躍できるように、より一層の周知をしていきたい。

(2) 第３次燕市生涯学習推進計画の策定スケジュールについて
《事務局説明》
　（委員からの質問なし）

協議
(1) 第２次燕市生涯学習推進計画における令和３年度の成果指標の実績値と令和４年度の目標値について
① 輝くつばめを担う子どもの育成
　《事務局説明》
　（委員からの質問なし）

② 多様な学習ニーズに応える学習機会の充実
　《事務局説明》

〇会長
　評価は×ばかりだが、ネガティブなところだけに目を向けないという視点も大切である。例えば「障がいのある人の自立と社会参画に向けた就労等の支援」で、点字図書などの蔵書数が増えている。これは喜ばしい事である。このコロナ禍で本に親しむというスタイルが生まれてきたというのは、「市立図書館の児童図書の年間

貸出冊数」が増えていることから伺える。こういったところを受け止めて、第３次計画の展望を考えていく必要があると思う。

〇委員
　学習機会の充実について、対面でなければ効果がないというものも多いのか。
〇会長
　オンラインが普及し、生涯学習も従来の対面・来場型から切り替わる転機を迎えているのではないか。全てが来場参加型でいいのかということ。
〇事務局
　令和２年度以降、オンライン会議やオンライン講座が少しずつ定着してきており、対面とオンラインのハイブリット型のものもある。そのため、講座などの中にはオンラインに対応しているものあるが、どうしても現場に出向かなければならないものもある。対面では感染症対策のため、大人数を集めることができず、どうしても指標の方が伸び悩んでいる。
　現行の推進計画は新型コロナウイルス感染症が流行する前の計画であり、活発に活動できる前提での計画数値となっている。本来であれば来年度から新しい計画となる予定であり、計画数値の下方修正を行わないこととしていたが、市の最上位計画である総合計画の策定などの関係で計画期間が一年伸びてしまったため、このような形となっている。
〇会長
　いまの指摘は第３次計画の新しい視点、課題になるのではないか。

〇委員
　新型コロナウイルス感染症の影響が特に令和３年度は酷く、とりわけお年寄りにとっては大打撃だったと思う。外出する機会が無く、段々としり込みをするようになっている所に、ましてやリモートなどと言われると、ITなどに弱いお年寄りが一番その社会から締め出されていくような気がしてしまう。
　令和５年度は、お年寄りにもう少し配慮した形でやっていただきたいと思う。
〇事務局
　現在、リモートやオンラインなど携帯端末を使う機会が多くなってきたため、「かんたんスマホ教室」のような講座を開催し、慣れていただくような機会も提供させていただいている。
　逆に皆様から、施設とか会場でこんな風に出来るというようなアイデアをいただきたい。

〇会長
「大学などとの連携・協働の推進」に×がついている。講座数でカウントするとゼロだが、違う形では連携を行っている。つまり、視点・枠組みを次期の計画では考えていく必要があると思う。

③ ふるさと燕の芸術文化活動の振興
《事務局説明》

〇委員
評価が全て×、これも新型コロナウイルス感染症の影響と推察するが、「芸術文化に触れる機会の充実」という中で、達成率が文化会館で 41.0％と特に低い。令和 3 年度実績は 17,002 人。入場制限があって 1 回あたり 400 人と考えると 40 回、社会教育課の主催事業があったということか。
〇事務局
文化会館の入館者数は、令和 2 年度に比べると少し回復傾向となった。令和 2 年度は自主事業も各種団体の利用も全然できないという状況であった。令和 3 年度については、利用はできるものの、秋口ぐらいまで 300 人に席数を制限していた。その後、感染対策をした上であれば 680 席まで緩和した。
団体数や回数までは手元にデータがないが、各団体の利用と社会教育課事業を合わせて 17,000 人程度の来館があった。
〇委員
文化協会の活動がなかったため、その分も減っていると思われる。

〇委員
文化協会加盟団体数も×になっているが、加盟するための条件が厳しすぎるということはないか。特に初期の参加人数について、一定数クリアできないと認めて貰えないが。
〇委員
文化協会はそうではないと思う。社会教育関係団体は登録人数に制限があるが。
〇事務局
文化協会の加盟については、人数の制限はない。社会教育関係団体は 10 人以上で、市内の方が半数以上という条件がある。なるべく 10 人以上で頑張っていただきたいが、継続している団体については多少人数が減っても、引き続き登録を行っている。

④ 生涯スポーツの推進と健康づくりの推進
《事務局説明》
（委員からの質問なし）

⑤ 生涯学習社会を支える環境づくり
《事務局説明》

〇会長
　ちょっと◎に注目したい。そこに次期に向けての可能性の目といったものが見て取れる。例えば「つばめ若者会議による地域活動参加回数」は、このコロナ禍にあっても 5 回取り組んだことは立派である。このつばめ若者会議は、非常に広報戦略がうまく、地元メディアに取り上げられるなど、若者の活躍するまち燕の PR になっていることについて私は大変高く評価をしている。

〇委員
　評価が×の中でも 87％とか、80％を超えているものも一様に×になっている。評価基準は。
〇事務局
　計画策定当初から達成率 90％以上で◎となる判定基準となっており、90％を下回ると全て×になる。次の計画では評価方法も含めて検討させて頂きたい。

意見交換

〇委員
　やはり新型コロナの影響は大きいということを改めて感じた。この影響を、マイナス面だけでとらえていると、なかなか学校教育も進まず、保護者も満足できないというようなことが続いた。しかしながら、例えば音楽発表会に保護者を呼べなくなったため動画配信を行ったところ、保護者は好きな時間に、自分の子どもをじっくり見られるということで、非常に視聴率が高まった。
　やはり、ハイブリッドや動画配信など色々な方法を考えてみると、新型コロナの影響でマイナスになった部分が回復できるのではないか。むしろ指標に「視聴数」を持ってくれば◎は達成できるのではないかと思う。
　そういう風に指標の内容も考えなければならないし、新型コロナに負けない施策をきちんと打ち上げて、実施していけば、まだまだ×が◎に変わる要素は沢山あるのではないかと感じた。

スポーツ教室についても、例えばヨガ教室を動画配信したりすれば、それなりの視聴数は出てくると思う。そのような形で工夫する必要があるのではないか。産業史料館、長善館史料館などの史料館、文化会館もそうだが、人数で評価すると指標が新型コロナに負けてしまう。例えば良寛や長善館の映画が流れれば、史料館は非常に人数が増えると思う。地域振興課や広報などと連携しながら、違う視点で増やす方法を考えていくと面白いのではないか。

〇会長

正にリフレーミングが求められている。視点・枠組みを、ウィズコロナという発想でとらえ直していく。そうすると来場者や参加者数からは見えてこない、効用・効果といったものが見えてくるのではないか。

〇委員

そのためにも、簡単スマホ教室のような事業の充実をお願いしたい。スマホを持っていても、電話を掛ける、受ける、メールを送るぐらいにしか使っていない人も多い。年をとると動画を見る方法や、リモートがわからないので、そういう手法をとられても数字が上がってこないと思う。そのため、そういった人たちでも簡単に参加が出来る様に、使い方がわかる教室をぜひ充実させて欲しい。

〇事務局

今では市のワクチン接種から健康診断まで様々なことでオンライン登録等をお願いしている。様々な方がスマホ等を手軽に使えるようになる一助となるような事業を検討したいと思っている。

〇委員

例えばパソコンであればワードやエクセル、ワードなら文章を打てるようになる、エクセルだと表を作ることができるようになるというように、目標が明確だと思う。一方、スマホは多機能で、人それぞれ色々な目的がある。例えば、動画配信など発信の分野の講座を開いてもらいたい人、セキュリティの分野を求めている人、色々な方がいらっしゃると思う。そういった的を絞らないと、ただ、スマホ教室を開いてと言っても、事務局としても難しいところがあると感じる。

そういう講師が人材バンクなどで現れてくれると良い。

〇会長

市民の学びへのアクセス、そのデジタル化が進んでくるので、そのあたりについては、やはり行政も考えていかなければいけない。

〇事務局

現在公民館を会場に「かんたんスマホ教室」を開催している。教室のメニューは一般的なメニューとなっており、電話・カメラの使い方、インターネットの見方、

また、要望が多かったため、SNSの中でもLINEの使い方について講座を用意して実施している。
　この教室で、LINEの使い方を選んだ方の中でも、まずアプリの入れ方を知りたい方や、起動の仕方から知りたいというような方もおり、レベル感の違いに細かく沿った内容で実施していかないと難しいということを感じた。
　今後については、さらにメニューを細分化するなど、ニーズを捉えてコース設定をする必要がある。また、市民の方主催でスマホについてなんでも相談できる相談会が実施されており、非常に好評得ていると伺っている。そういったニーズも多いため、今後の事業について検討していきたいと思っている。
〇会長
　高齢者がスマホ、タブレットを持つということは、防犯や防災の面での効果も期待できる。行政もさらに積極的に、ニーズに応える形でサービスを充実させていってもらいたい。ぜひ、そうした視点を次期計画の中に盛り込んで欲しい。

〇委員
　やはり若い方の方がインターネットに関しては詳しい。なので、子どもたちが高齢者に教えるといったような、役割を持たせることもすごく大事だと考えている。今の子どもたちは家に閉じこもりがちで、ネットで外と繋がっているが、それが外に出ていく、ましてや燕市内で、ということが出来ると良い。中学生、高校生、大学生にそういう機会を与えて、役割を持ってもらって、高齢者の方たちに教えていくような活動が出来ればと思っている。
〇会長
　スマホを通じた異世代交流にもなる。現在、だいたい10歳から17歳まで、スマホを持っている・インターネットを利用している割合は殆ど 100%に近い。0 歳から９歳でも70%以上ネットを使っている。デジタルについては遥かに子どもたちの方が長けている。子、孫からおじいちゃんおばあちゃん、お母さんお父さんに教えというような生涯学習の新しい形があってもいいのではないかと思う。

追加資料
・燕市の子ども食堂

〇会長
　いま、日本全国には５、６千か所のこども食堂がある。経済的な困難で３食十分に食べられない子どもは、７人に１人、６人に１人とも言われているが、子ども食堂というのは、ただ欠食児童対策という事だけではなく、そこで宿題をやったり、交流したりというような、ある意味教育的、生涯学習的側面もある。

・社会教育関係団体数の推移

〇委員
平成 28 年度、29 年度は燕でものすごく増えて 16,000 を超えているが、平成 30 年度に急に 11,000 人以上減っている。この減少は何か。
〇事務局
平成 28、29 年度の燕の公民館受付分は、施設使用料の減免などの為、市内の 13 あるまちづくり協議会が登録したことによるもの。まちづくり協議会は住民が構成員であることから大幅に人数が増えた。その後、登録をしなくても施設使用料を減免することとなり、その分が減少した。この 2 か年だけ特殊な事情となっている。

・児童クラブ等の在籍数
（委員からの質問なし）

〇委員
公民館の教養講座をやっているが、新型コロナウイルス感染症とは関係なく、人数が年々減少している。これはもう社会の変化によるものかとも感じている。昔であれば、市の講座で教養を高めようという方が多く受講されていたが、最近は多様性によるものか、講座とは違う方法で教養を磨くという考え方が主流になってきたように感じる。
地元の小学校でも彫金の体験を一昨年までは行っていたが、新型コロナウイルス感染症の影響でなくなってしまった。感染症対応については、親御さんも厳しい考えでおられるのかと思う。
昔は誰もが教養を磨きたいということでやっていたものが、自分にそったやり方で、パソコンなり、いろいろな機会を通じての自分磨きになってきているのではないかと感じる。
〇会長
市民の生涯学習に対する指向性やニーズが多様化するに伴って、地元の伝統の技を後世に伝えていくということのご苦労をお話いただいたと思う。

〇委員
先ほどスマホ教室の話が出たが、実際にスマホ教室の募集を会員 9,000 人に会報誌等で案内した結果、3 人程しか集まらなかった。
やはり、先ほどの話のように、的を絞って募集をした方がいいと感じた。

〇会長

市民のニーズに的を絞った形で、応えるサービスを充実させていくということが、今日の会議のキーワードになったかと思う。こちらについては３月の会議でも引き続き議論していきたい。

次の会議に向けてだが、これからPTAの時代がくると思っている。コミュニティスクールが新しく立ち上がったが、燕市ではどのように進めているのか。

PTAは日本最大の社会教育・生涯学習団体である。形骸化やブラック化というようなことがネットで話題となり、転換点に立っているわけであるが、やはり、これからコミュニティスクールが軌道に乗っていくと、ますますPTAの役割や期待というものが大きくなってくる。PTAが、地域に開かれた学校づくり、地域とともに歩む学校のために果たす役割というのは大きい。

燕市は学校支援地域本部が凄く盛んに取り組まれていた地域であり、この部分の期待があるのでぜひ次回、会議の時に資料として出していただけるとありがたい。

閉会